

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応 募 者 に 関 す る 情 報

記入日：2012 年 11 月 27 日

応 募 者 情 報	
応 募 団体名	<p>(フリガナ) トヨウインキ イシホールディングス カブシカイシャ</p> <p style="text-align: center;">東洋インキ SC ホールディングス株式会社</p> <p>(団体名)</p> <p><small>※協働プロジェクトでの応募の場合は、代表団体名以下プロジェクトに参加している主な団体名をご記入下さい。</small></p>
応 募 担当者 連絡先	<p>団体名： 東洋インキ SC ホールディングス株式会社</p> <p>〒104-8377 所在地： 東京都中央区京橋二丁目 3 番 13 号</p> <p>部署名： 生産・物流・調達本部 環境安全推進部</p> <p>役職名： 部長</p> <p>氏 名： 内田 弘美</p> <p>TEL： 03-3272-0659 FAX： 03-3272-0699</p> <p>E-Mail： hiromi.uchida@toyoink.co.jp</p>
ホームページ	<p>http://schd.toyoinkgroup.com/ja/index.html</p>
<p>応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大 2000 字入力できます。詳細は別紙添付可）</p> <p>当社は、東洋インキグループの持株会社である。事業会社である東洋インキ（株）、トーヨーケム（株）、トーヨーカラー（株）、及び国内外の関係会社が製造する印刷インキ、粘接着剤、樹脂、顔料、プラスチック着色剤、カラーフィルター材料などにより、印刷・情報関連事業、パッケージ関連事業、ポリマー・塗加工関連事業、色材・機能材関連事業を行っている。 （詳細は、別紙の会社案内を参照）</p>	

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data1ist.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

「東洋インキグループ 社会・環境活動報告書 2012」のカーボン・オフセット

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver. 1.1)」に基づく分類

http://www.jcs.go.jp/pdf/document/ki_jun.pdf

<カーボン・オフセット対象・・・バウンダリ>

「社会・環境活動報告書 2012」のライフサイクル段階全て
(原材料調達 → 生産(印刷) → 流通 → 使用・維持 → 廃棄・リサイクル)
のCO2排出量を、カーボン・オフセットの対象とした。

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

「社会・環境活動報告書 2012」の発行期間 (2012年8月1日～2012年10月31日)

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

「社会・環境活動報告書 2012」に記載 (P45)

当該報告書は、自社のホームページにも掲載 URL : <http://sched.toyoinkgroup.com/ja/csr/reports/latest.html>

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

東洋インキグループのCSR報告書である「社会・環境活動報告書 2012」の、日本語版のライフサイクル全体のCO2排出量について、第三者検証が実施されるカーボンフットプリント(CFP)制度で認定された商品種別算定基準(PCR)「宣伝用および業務用印刷物」(PA-BS-01)に基づいて算定した。

この結果に基づき、日本語版の発行部数全体のCO2排出量を、カーボン・オフセットした。

- ・ 「社会・環境活動報告書 2012」1部あたりのCO2排出量：500g
- ・ 「社会・環境活動報告書 2012」日本語版の発行部数：8,000部

※「社会・環境活動報告書 2012」のライフサイクル段階別のCFP値(CO2排出量)

- | | |
|---------------|----------|
| ① 原材料調達段階： | 400g-CO2 |
| ② 生産段階(印刷)： | 48g-CO2 |
| ③ 流通段階： | 42g-CO2 |
| ④ 使用段階(読書)： | 0g-CO2 |
| ⑤ 廃棄・リサイクル段階： | 10g-CO2 |
| ⇒ 合計：500g-CO2 | |

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください(複数可)。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1. CO2排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ

その他(具体的に：エネルギー使用量の把握と省エネに取り組んでいる印刷会社を選定、報告書の運搬・配送時の簡易包装など)

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

J-VER

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

福岡市営林間伐促進型プロジェクト

- ・ プロジェクト番号：0080
- ・ 実施地：福岡市
- ・ 方法論：R001
森林経営活動によるCO2吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

カーボン・オフセットの完了日：2012年10月22日

- ・ 本クレジットの特定番号：JP-200-000-000-085-093~JP-200-000-000-085-097

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第 1 回カーボン・オフセット大賞の 1 次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

今回の取り組みは、東洋インキグループの CSR 報告書である「社会・環境活動報告書 2012」の、日本語版のライフサイクル全体の CO2 排出量をカーボン・オフセットするものである。報告書の CO2 排出量を削減するために、以下のよう
な取り組みを行い、特に、報告書の印刷・運搬に関しては、印刷会社等の理解と協力を得た。

- ・ 社会・環境活動報告書に記載すべき内容を吟味し、全体で 48 頁とし、表紙、本文とも同じ用紙を使用した。製本に際しては、接着剤等を用いず、中綴じとした。
- ・ 報告書に使用する用紙は適切に管理された森林からの FSC 認証紙を使用した。
- ・ 印刷インキについては通常の大豆油の代わりに米ぬか油から製造されたライスインキを使用し、CO2 の削減と持続可能な社会の実現に努めた
 - 大豆油と同じで植物油原料を使用するので焼却時はカーボンニュートラル
 - 米ぬか油は輸送マイルージが少ない（大豆は米国からの輸送に対し米ぬかは地産地消）
 - 米ぬかは廃棄処理されているものを再利用- 米ぬか油を搾油した後の残渣は家畜のえさとして再利用
- ・ 印刷会社として、印刷機等の機器それぞれに電力計測器を設置し、エネルギー使用量の把握と省エネに積極的に取り組んでいる業者を選定した。
- ・ 社会・環境活動報告書印刷後の発行者（弊社）及び配付会社（報告書を Web サイトに掲載し読者からの要求に応じて報告書を送付する会社）への運搬時の梱包にダンボールを使用せず、簡易包装として報告書 50 部単位をクラフト紙で梱包することでダンボール製造に係る CO2 排出量を削減した。
- ・ 配付会社から一般読者への発送方法も、封筒を使用せず最も簡易包装（タック包装のみ）であるメール便を使用した。

今後は、CO2 排出量の更なる削減に向けて、以下のような方策を実施する予定である。

- ・ 報告書のページ数削減につなげるための内容の見直しと、自社のホームページへの記載内容の振り分け（ただし、印刷インキの製造メーカーであるため、引き続き印刷物としての報告書は発行する）
- ・ 印刷インキ製造工程の省エネ化の推進
- ・ 配付会社の選定見直しによる報告書の輸送距離の削減

2. カーボン・オフセットの内容

東洋インキグループの CSR 報告書である「社会・環境活動報告書 2012」の、日本語版のライフサイクル全体の CO2 排出量について、第三者検証が実施されるカーボンフットプリント（CFP）制度で認定された商品種別算定基準（PCR）「宣伝用および業務用印刷物」（PA-BS-01）に基づいて算定した。

この結果に基づき、日本語版の発行部数全体の CO2 排出量を、カーボン・オフセットした。

- ・ 「社会・環境活動報告書 2012」1 部あたりの CO2 排出量：500g
- ・ 「社会・環境活動報告書 2012」日本語版の発行部数：8,000 部

また、カーボン・オフセットに際して、以下のような配慮をした。

- ・ 社会・環境活動報告書の CO2 排出量のうち印刷用紙が全体の約 70%を占めるので、カーボン・オフセット対象は持続的な森林資源の保護対象プロジェクトを選定した。
- ・ カーボン・オフセットは社会・環境活動報告書の発行に係る CO2 排出量の全量分とした。
- ・ 安心プロバイダーの選定によりカーボン・オフセットの信頼性を確保した。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

今回の取り組みの最大の目的は、自社の製品が使用され、かつ他の企業でも活用しやすい印刷物、特に CSR 報告書を対象にカーボン・オフセットを実施することである。当社は、印刷インキの PCR 策定の中心となり、また、印刷物等の PCR 策定にも協力した。現在、CSR 報告書やパンフレットなどの印刷物について CFP 値が算定されているが、CO2 排出量の「見える化」にとどまっており、環境負荷の低減には結び付いていない。

当社では、2010 年度版の「社会・環境活動報告書」から、CFP 値の算定とカーボン・オフセットを継続して実施し、その取り組みをアピールしており、これによりカーボンフットプリント (CFP) /カーボン・オフセットの取り組みを分かりやすく伝え、「印刷物のカーボン・オフセット」及び「印刷業界でのカーボン・オフセット」の取り組みを活性化できると考えている。

<メッセージ性／取り組みに対する思い>

読者・クライアント	～印刷物のカーボン・オフセットはこんな感じです！～ 印刷物でのカーボン・オフセットの活用事例について情報発信することで、印刷物におけるカーボン・オフセットの需要を増やしたい。
印刷会社	～低炭素配慮がお客様の意思決定の一つとなる！～ 「CO2 排出量の見える化」から得られる効果を伝えることで、削減努力や見える化の活動のきっかけとなしてほしい。
印刷関連業界	～印刷物のカーボン・オフセットは魅力的！～ 印刷物のカーボン・オフセットの方法と効果を PR することで、業界全体としてカーボン・オフセットの活用が定着してほしい。

今後は、「社会・環境活動報告書」以外の自社の印刷物にカーボン・オフセットを拡大するとともに、CSR 報告書に用いられる印刷インキ (ライスインキ) のカーボン・オフセットを行って、印刷物の環境負荷低減にも貢献したいと考えている。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

自社の「社会・環境活動報告書 2012」のカーボン・オフセットを実施するに際して、以下のようなアピールを行った。

- ・ 第三者検証が実施されるカーボンフットプリント (CFP) 制度との連携により、信頼性の高い CO2 排出量の算定が実施されている。
- ・ 展示会やセミナー等を通じて、CO2 排出量の「見える化」やカーボン・オフセットの仕組みを紹介し、様々な方に対して低炭素社会に関連した取り組みについての情報の浸透を図った。

また、カーボン・オフセットの普及啓発の効果は、以下の通りである。

- ・ 今回カーボン・オフセットの対象とした「CSR 報告書」という媒体は、業種を問わずに多くの企業が定期的に発行する発行物 (800 社以上の企業が発行) で、ポテンシャルが高い。そのため、どの企業でも CSR 報告書にカーボン・オフセットを比較的容易に活用できることを情報発信することで、多くの企業で、同様の取り組みを行うことが期待できる。
⇒汎用性の高い活用事例を作ること、取り組みやすさを啓発
- ・ カーボンフットプリント (CFP) 制度において印刷物、出版物に関する商品種別算定基準 (PCR) が公表されているが、印刷物の流通を考慮すると、CFP 値の検証は時間的に難しく、印刷業界は独自の仕組みに基づくカーボン・オフセットに進む方向にある。当社は、国内の印刷インキのシェアの 40%を占め、印刷インキ業界や印刷業界に与える影響も大きく、印刷物のカーボン・オフセットの進展に、今回の取り組みが大きく寄与すると思われる。
⇒印刷業界における CO2 排出量の見える化の活性化
- ・ 一般読者への社会・環境活動報告書の配付を通じ、報告書の CO2 排出量を「見える化」し、排出 CO2 をオフセットした活動を PR する。
⇒一般読者へのカーボン・オフセットの普及啓発

5. ストーリー性

CFP 値の算定結果から、当社の「社会・環境活動報告書」の CO2 排出量の約 70%が、印刷用紙に由来することが示されており、印刷物と紙（→森林）との関連性は強い。そこで、報告書の印刷用紙として FSC 認証紙を用い、カーボン・オフセットのためのクレジットとして J-VER を用いることで、以下のようなストーリー性を構築した。

印刷物と関連の深い森林のためにできること 「印刷物は二度、山を応援できる！」

<一度目の応援 ～FSC 認証紙で山を応援～>

FSC 認証紙を選択することで、不法（違法）伐採の圧力から森林をまもることになり、健全な森林経営につながる。

<二度目の応援 ～J-VER の使用で山を応援～>

森林吸収源由来の J-VER を使用することで、間接的に、適切な森林経営を行っている森林に資金が還元され、森林の活性化につながる。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDF の場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG 等）お送りください。

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 7 階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp